

山内一豊とその妻

「山内一豊とその妻」の話が、戦前の国定教科書に紹介されており
ました。その逸話をそのまま当時の文字で掲載します。

山内一豊が織田信長の家來になつたばかりの頃、よい馬を
賣りに來た者がありました。
見た人は皆ほしいとは思ひま
したが、價が餘り高いので、
誰一人買はうといふ者があり
ません。馬の主は馬を引いて
歸らうとしました。一豊もほ



しいほしいと思ひながら、家へ歸つて、「あゝ、金が無いから仕
方がないが、武士としては、どうかしてあのくらゐな馬を持
つて見たいものだ。」とひとり言をいひました。妻はこれを聞
いて、「その馬の價はいか程でございます。」「金十兩。」妻は
しばらく考へてみましたが、「それだけのお金ならば、私が
差上げます。」と言つて、かゞみ箱の中から十兩の金を出して
來て、夫の前に差出しました。一豊はおどろいて、「これはど
うした金か。これ程貧しい暮らしをしてゐながら、こんな大金
が有るのに、なぜ今まで話さなかつた。」「さやうでございます。
これは私がこちらへ參る時、『夫の一大事に使へ。』と申して、
父が渡した金でございます。うはさに聞きますと、近い中に
京都で馬揃へがありますとのこと。定めて皆様は御じまんの
馬に乗つて、お集りのことございませう。あなた様にもそ
のよい馬にめして、御主人のお目にとまるやうになさいませ。」
一豊は妻に禮をのべて、その馬をもとめました。やがて馬揃
への日となつて、一豊の馬ははたして信長の目にとまつて、
「あゝ、よい馬、名馬々々。誰の馬か。」と尋ねました。家來
の者が「これは一豊の馬でございます。」と言ひますと、「日
頃貧しい暮らしをしてゐる一豊が、よくもかういふよい馬を買
ひもとめた。見上げた志の者、りつばな武士。」と、信長は大
そう感心しました。

最寄りの駅及び インターチェンジの ご案内

鉄道 JR東海道本線 木曾川駅
名鉄名古屋本線 新木曾川駅
高速道路 東海北陸自動車道 一宮木曾川IC



一宮市観光協会

〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL / 0586-28-9131・FAX / 0586-73-9135
(URL) <http://www.138ss.com/>



信長、秀吉、家康の三英傑に
巧みに仕えた初代土佐藩主

一宮市木曾川町出身の戦国武将

山内一豊



（武士佐山内家宝物資料館所蔵）

一宮市観光協会

山内一豊



生 年・1545年(天文14)~1605年(慶長10)
 享 年・61歳
 出身地・尾張黒田
 幼 名・辰之助

安土桃山、戦国時代の武将。織田信長に仕え、その後羽柴秀吉に仕える。小田原の役の後、遠州掛川5万石。関ヶ原の合戦では徳川家康につき、土佐20万石を得る。妻の内助の功により駿馬を買った話は有名。

《略年表》

- 1545年 尾張黒田(現在の一宮市木曾川町黒田)に誕生
- 1557年 黒田城が夜襲にあい長兄・十郎が討死
- 1559年 織田信長が岩倉城を落とし、尾張の大半を統一豊の父・盛豊、織田信賢方にあって戦死
- 1560年 元服し伊右衛門一豊と名乗る
- 1573年 信長軍として越前刀根山の朝倉追撃戦に加わる
この時、敵将からの矢で右頬から貫通する大怪我をする
近江唐国(現在の滋賀県虎姫町)に400石を与えられる
- 1575年 秀吉に従い長篠の戦いに参戦
- 1581年 馬揃えが開催され、この時あの伝説が生まれた
- 1582年 秀吉に従い山崎の戦いに参戦
- 1583年 秀吉に従い亀山城戦、賤ヶ岳戦に参戦
- 1584年、秀吉に従い小牧長久手の戦いに参戦
- 1585年 秀吉に従い紀州征伐に参戦
秀吉に従い越中戦に参戦
近江長浜に2万石を与えられる
- 1590年 小田原城攻めに参戦
- 1592年 山内忠義(二代藩主)生まれる
- 1600年 関ヶ原の合戦
小山軍議で掛川城明け渡しを建議する
土佐一国の領主となる
- 1601年 甲浦に上陸、浦戸城へ入城する
- 1605年 養子の忠義と家康養女・阿姫との婚約が成立
9月20日、61歳で没する
真如寺山(筆山)に葬られる

黒田城跡周辺地図



木曾川資料館



山内一豊を中心に、浅野長政、兼松正吉など一宮市ゆかりの戦国武将、史跡などを紹介している。建物は、大正13年(1924)に竣工した旧木曾川町会議事堂で貴重な歴史的建造物である。

- 所 一宮市木曾川町黒田字宝光寺18-1 ￥無料 休 月曜日
- 開 午前9時30分~午後5時 交 名鉄名古屋本線「新木曾川駅」より徒歩3分、JR東海道本線「木曾川駅」より徒歩15分
- 車 東海北陸自動車道一宮木曾川ICより8分 駐 なし

*周辺には駐車場がありません。公共交通機関をご利用下さい。

法蓮寺



法蓮寺本堂北には、一豊の父・山内但馬守盛豊と兄・十郎の墓がある。兄は弘治3年(1557)に黒田城で夜襲にあい死亡。父は永禄2年(1559)に岩倉城落城時に死亡したとされる。また、法蓮寺境内には「山内一豊出生地」の碑がある。法蓮寺の妙見堂は、日本三大妙見の一つに数えられる妙見菩薩で有名である。法華経の校本で日相本として世に知られる日相上人は、当地の生まれでこの寺の十三代の住職である。



▲一豊の父(右)と兄(左)の墓

- 所 一宮市木曾川町黒田字勤治西60
- ￥ 無料
- 休 なし
- 交 JR東海道本線「木曾川駅」より徒歩6分、名鉄名古屋本線「新木曾川駅」より徒歩11分
- 車 東海北陸自動車道一宮木曾川ICより10分 駐 20台

黒田城跡

(一宮市指定史跡)



山内一豊の父・盛豊は、岩倉城を本拠とする岩倉織田氏の家老を務め、支城の黒田城を預かっていた。天文14年(1545)に、一豊はこの地で生まれたとされ、弘治3年(1557)の敵襲を受けるまで、黒田を中心に暮らしたことであろう。山内氏の退去後は、織田広良が入城し、次いで和田氏、織田信雄配下の澤井雄重が城主を務めた。信雄失脚後は、秀吉家臣の一柳直盛が入り、慶長5年(1600)の転封まで使用された。現在、市街化が進み遺構は残らないが、江戸時代の絵図によれば、城は野府川を北の備えとし、東には後の岐阜街道を抑えていた。天守に相当する櫓もあったと思われる。この小公園は平成10年に整備され、冠木門(模擬)の右手奥には一豊顕彰会寄贈の一豊立志像がある。



▲一豊立志像

- 所 一宮市木曾川町黒田字古城 ￥無料
- 休 なし 交 JR東海道本線「木曾川駅」より徒歩5分、名鉄名古屋本線「新木曾川駅」より徒歩10分
- 車 東海北陸自動車道一宮木曾川ICより10分 駐 なし